南北海道外洋帆走協会　会報134号

総務委員会
2003. 5. 1

▼ 平成15年度定期総会　議事録

平成15年度　南北海道外洋帆走協会
定期総会　議事録

1. 開催日時：平成15年4月19日　18：30-19：25
2. 開催場所：花びしホテル　会議室
3. 開会時の会員数　158名
4. 出席会員数　82名（内委任状出席　43名）
5. 会議の模様

出席会員の中から小松基衛会員を満場一致で議長に推挙し、小松議長は議長席より出席会員数を確認し議事に入る。

6. 議案

1)　平成14年度　事業報告
各委員長より事業報告があり、拍手で承認した

2)　平成14年度　決算報告
水野監事の監査報告および質疑応答の後、拍手で承認した

3)　平成14年度　ポンツーン管理会計報告
質疑の後、拍手で承認した

4)　役員の改選について
理事会より以下の通り役員候補者が推薦され、承認された
会長　西村憲人　　副会長　宮田忠博、須田新輔、森　康　　理事長　石川　彰
副理事長　竹田純一、荒山雅仁　　監事　金沢良悦、水野量吉
名誉会長　上河睦美　顧問　松崎　勉、高野洋蔵

5)　平成15年度　事業計画（案）
質疑の後、拍手を以って承認した

6)　平成15年　収支予算（案）
質疑応答の後、拍手で承認した

以上で予定の議事を終了し、議長および議事録署名人は以下に署名・捺印した
平成15年4月19日

南北海道外洋帆走協会
議長　理事　　小松基衛
理事長　石川　彰
理事　　津幡和隆

▼ 平成15年度　定期総会

主な質疑応答

井部会員；底辺の拡大が必要である。また、人事において新陳代謝が必要ではないか。ＪＳＡＦとの絡みもあるが、競技の底辺拡大の必要がある。道やＪＳＡＦ中央からの還付金などを利用する事も考えられる。事故の場合もＪＳＡＦの保険で対処できる。現状では事故の場合どこが責任を取るのか今後検討する必要がある。まずは組織の見直しが必要ではないか。

理事長；人事の面で滞っているのは理解している。底辺の拡大および普及には海事普及委員会で対処していきたい。ＪＳＡＦの件は、本会の会員が全員ＪＳＡＦ会員というわけではないので、今後会員の理解のもと検討していきたい。

佐藤（勝）会員；函館市体育協会からの助成金（競技力向上費）を3万円いただいているが、平成14年度の決算では競技委員会の補助が0円で使われていないような印象を受ける。函館市および体協に対して説明がつくのかどうか。また、レースのＪＳＡＦのルールが本年4月から使用できなくなるが、今後のレースに関するルールはどうするのか。

理事長；外帆としてＪＳＡＦのルールが使えなくなると言う事なので、今後この件に関してプロジェクトチームを作って対応したい。

佐藤（義）会員；話し合っていくと言うがいつまでに対応するつもりなのか。もうレース日程は決まっているので、早くしなければならない。

理事長；この1年間で方向性を決めていきたい。

佐藤（勝）会員；3月31日で猶予期間は終わり、4月からはルールは使えない。早くやらなければならない。

理事長；出来るだけ早く結論をつける。

湯谷会員；現行1艇1名の理事を出す事になっているが、ワンオーナーの理事もいれば多くの会員を抱えたクラブもある。1艇1名の理事と言うのはどうしてか。

井部会員；これまで鉾丸の代表ででていたが、鉾丸は譲ったので今後はサムライのオーナーとしてやらしてもらう。グループオーナーの理事とワンオーナーの理事では違うのでないか。人数割りで理事を出すと言うのはどうか。

理事長；定款上1艇1名の理事を出す事になっている。定款の変更をするならまず理事会で提案していただきたい。また、総会では理事数ではなくすべての会員に参加する機会もあるし、議決権は参加会員の多数で決めることになっている。

井部会員；道連からも頼まれ、また相応の資格も持っているので、ＪＳＡＦ外洋北海道函館フリートを立ち上げようと言う動きもある。

湯谷会員；ＪＳＡＦ外洋北海道の事務局をやっている。日本セーリング連盟との関わりはこれから必要になってくる。こちらの水域ではＪＳＡＦ外洋津軽海峡もあるが、きちっとした形で今後ＪＳＡＦ外洋北海道函館フリートとして活動していきます。

▼ 定期総会開催

本年度の定期総会は2003年4月19日（土）18：30より花びしホテルにて開催された。30分の予定が約2倍の時間かかりましたが、活発な質疑応答が行われた。一通りの事業報告・決算報告・監査報告の後、別項の通りの質疑が提起された。

野球やサッカーなどすべてのスポーツでアマチュアがそのルールを使えないというスポーツは有りそうにないのだが、ヨット界はどうも違うらしい。外帆としては今後合法的にルールを使えるよう検討することになると思われる。

ＪＳＡＦ外洋北海道函館フリートのことについては寝耳に水であった。この件に関しては本協会の総会での議決事項でもないし、今後も理事会で議論すべき事柄でもないと思われる。

人事の停滞・新陳代謝の欠如などは全くその通りで、今後真剣に検討することになろう。底辺の拡大は当然必要な事で、海事普及を中心にこれまで以上に努力が必要だ。また、会員の拡大と言う見地からは、家族会員・学生会員などの割引［3,000円］なども検討していったらどうかと思う。

批判は甘んじて受け、改革して行けばよいと思う。外部から見るとただでさえ弱い任意団体であるので、協会の分裂だけは避けたいものである。

▼ 上架作業

2003年4月20日（日）08：00から上架作業が行われた。総会の翌日とあって、二日酔い気味の御仁も居られたかもしれませんが、風も弱く順調に上架作業が行われた。ペガサスは久々にマストを抜き点検作業を行っていた。

5月11日（日）に下架と第２班の上架が行われ、６月始めに最終の下架が行われる予定である。